どうやってジャムあげる？

すぎの子幼稚園・おおぞら保育園（群馬県桐生市）［5歳児］

事例1　昆虫散策・むしむしの家での発見　5月上旬

［背景］園内の活動エリアの中にある「むしむしの家」には、エノキの木が植えられており、国蝶オオムラサキが生息している。子どもたちは、定期的に立ち寄り、観察ができる。

保育者＝T　青字＝分析

A児「オオムラサキいるかな？ちょっと入るの怖い！」
（→動物、昆虫全般的に苦手意識がある。）
T「一緒に入ろう。探してみよう！」と誘う。興味のある子どもたちは次々に幼虫を発見する。
B児「茶色い幼虫と緑の幼虫がいる！」
子どもたち「ホントだ！こっちにもいるよ！」気付き
C児「どうしてかね？」疑問
D児「敵に見つからないように小さい時は茶色で脱皮して大きくなると緑になるんじゃないの？」仮説
C児「そうだね。大きさも違うし！」仮説
T「みんな、すごいね！また見に来てみようね！」と言い、帽子に付いたオオムラサキの幼虫をそのままにしてクラスに戻る。子どもたちが気付くのを待つ。
E児「あっ！先生の帽子に幼虫が付いてる！」気付き
F児「なんで付いてきちゃったの？」疑問
D児「むしむしの家に入った時にきっとくっ付いたんだよ！」仮説
F児「帽子の色が茶色だから木とまちがったんだよ！」仮説

T「そうみたいね！どうしよう？」
C児「飼いたいけど、木がないから戻す方がいいと思う」仮説
T「そうだね！」再びみんなでむしむしの家へ行く。なかなか木に行かないオオムラサキの幼虫を見守り、子どもたちと決めたエノキの木に戻す。行動
C児「またこの木にいるか見に来ようね！」
E児「あっ！キアゲハが飛んでる！」気付き
A児「・・・」傍観するのみ。
子どもたち「卵、産んでるよ！」声を潜めて産卵を見る。「蜘蛛の巣に頭がひっかかって、とれちゃってる幼虫がいる！」気付き「かわいそう」「死んじゃってる」「とってあげる？」「抜け殻かも？」気付き・仮説
T「調べてみようか？どうすれば細かい様子が見られるかな？」＜子どもたちは空洞なら抜け殻、空洞でなければ死骸という知識をもっていた。＞
F児「テレビに映る顕微鏡！」モニターを見ると「中が空だ！」気付き「やっぱり抜け殻だよ！」「本当だ！でも何で茶色なんだろう」確信・疑問

事例2　幼虫の成長からの比較　5月中旬

［背景］前回の発見から「むしむしの家」に入ると、エノキの木をよく観察し、幼虫の発見を楽しむ。様々な昆虫の実態にも気付き、興味深くかかわる姿が見られる。そこで、子どもたちの観察から、より探求心を掘り下げて考えられるように見守った。

D児「先生、あの幼虫が見つからない！」
T「みんなで見つけよう！」高い位置まで登っていた。
E児「いた！あんなに高い所にいるよ！」気付き
子どもたちが駆け寄り「すごい！もうあんなに動いていたんだね！」「元気で良かった！」皆、安心した様子。
F児「また抜け殻見つけた！いっぱいある！でも色が違う！」気付き
C児「何でかね？」子どもたちが集まり出す。疑問
T「本当だね！この前は何色だった？」
子どもたち「茶色！」
F児「またテレビの顕微鏡で観てみるか！」検証
C児「目があるよ！鼻もあるし、角もある！」気付き
T「じゃあ大切に持って行こうね！」クラスに戻り準備を進めていると
A児「籾も見られる？」とクラスで栽培している籾の生長に関心を寄せたA児からの発信。
T「そうだね！抜け殻と一緒に調べてみよう」テレビ顕微鏡での観察。前回の茶色の抜け殻も保管していたため、比較することで子どもたちの考えや発見を引き出そうと考えた。
A児が嬉しそうに微笑んだ。
子どもたち「やっぱり色が違う」「大きさも違う」気付き・比較　「緑の幼虫の抜け殻かも？」「でも顔があるから抜け殻じゃない？」「抜け殻だよ！だって中が空っぽだよ」仮説　「抜け殻の近くにいた幼虫は大きくなっていたよ！」気付き　「きっと脱皮して大きくなったってことだよね！」仮説・確信
A児「そうなんだ！」幼虫に対する反応が見られた。
（その後、A児の希望から籾の根と芽も観察する。図鑑も開きながら、幼虫同様、根と芽の見分け方など子どもたちなりの考えが飛び交っていた。）

事例3　クラスで観察を続ける　6月中旬

［背景］オオムラサキの様子が大きく変わり始める。幼虫は脱皮を繰り返し、遂に蛹へと様子が変わってきた。その姿を追う子どもたちの目の輝きも増し、A児も日々幼虫との距離を縮めて興味を抱き始め、積極的な様子が見られるようになってくる。

F児「抜け殻見つかるかも！」仮説
A児「あった！ちょっと大きいよね？」気付き
C児「最後の抜け殻なんじゃない？」仮説
F児「先生、死んじゃってる幼虫見つけた！」気付き
A児「本当だ！かわいそう！なんで！」疑問

H児「幼虫の敵もここで生きているからだよ！」**仮説**
T「そうだね。蟻も蜘蛛も命をいただいて生きているってことだよね！」
C児「あっ、この幼虫、葉っぱにぶら下がっている。蛹になりそう！」**気付き**
T「蛹になるまで待ってみる？」
子どもたち「見たい！見たい！」「でも、給食の時間になっちゃうし、すぐならないかも！」**仮説**
「そっか、どうしよう…」
G児「部屋に持っていく？」子どもたち「そうしたい！」
T「大切な命を預かるわけだから、みんなで毎日守っていける？」
子どもたち「できる！守れる！」と言い、クラスへ蛹になりそうな幼虫を連れて行く。
C児「白い糸が出てるよ！」**気付き**
G児「なんで？」**疑問**
D児「それは、葉っぱから落っこちないように、蛹になるからだよ！」（知識があり、伝える）
降園時までに蛹にならず、翌朝、蛹に変わる。
F児「蛹になっちゃった！」**気付き・驚き**
C児「蛹になってる！みんなに伝えなきゃ！」**気付き・感動**「抜け殻が糸でぶら下がってる！」**気付き**

D児「蛹になる時も糸を出してるってことじゃないの？」**仮説**
T「みんな、すごいね！」
H児「この前むしむしの家で見た抜け殻と同じ形だよ！」**気付き 仮説**
F児「あの抜け殻は、蛹になる前の抜け殻だったんだよ！」**確信**
A児「最後の抜け殻だったんだね！」（→観察場所へ）
自ら歩みよりかかわる姿が見られる。
H児「今度は、いつ蝶になるのか楽しみだね！」
C児「今度の月曜日かな？」**仮説**
D児「もっと先じゃない？」→羽化への期待　**仮説**

事例4　オオムラサキの羽化　7月上旬

［背景］子どもたちは、毎日、羽化する日を心待ちにしていた。蛹になってから18日目を迎えようとしていた週末に、蛹の色が変化してきたことに気付いた。月曜日の早朝、羽化していた（その瞬間に立ち会うことはできなかった）。早朝登園して蛹の抜け殻に気付き…。

C児「あれ！何で！蛹がいない！」焦って探す。**疑問**
F児「きっと羽化したんだよ！」**仮説**
T「本当だね！どこにいるんだろう？」
J児「いたいた！窓の所！」**気付き・感動**
C児「すごい！やったね！でも、逃げちゃうから、ドアをちゃんと閉めないといけないよ！」
A児　少し離れた所から見て「きれい！」と言いながら、徐々に距離を縮めて観察に興味を示す。
C児「餌が無いとかわいそう！」**気付き**
F児「調べよう！図鑑持って来る！」図鑑や本を広げ、何を餌にしているかを、調べ始める。樹液や果実と書かれていることをヒントにして考える。
F児「ドドメジャムとか食べるかも！」以前桑の実を使ってジャム作りをしていたことに気付く。**仮説**

D児「まだあるかもね！」
F児「じゃあ、冷蔵庫に取りに行ってくる！」
C児「どうやってジャムあげる？」**疑問**
F児「カップに入れてみる？」**仮説**
J児「うまく吸えないよ！」**仮説**
A児「じゃあティッシュに付けてみる？」仮説
すると、蝶がドドメジャムを吸い始める。
A児「やったあ！」検証・確信
J児「あっ！ストロー出してる！」**気付き**
ドアの開閉にも気遣いながら、他の学年に報告に行く。
F児「ドドメジャム成功だね！」**確信**
C児「この花もいいかも！」ブットレアの花で様子を見て、「やっぱりジャムの方が好きみたいだ！」**確信**

考察
蛹から蝶へ変態する神秘的な瞬間に子どもが立ち会うことはできなかったが、一生懸命に考えたり調べたりするようになった。羽化後の蝶の餌について、図鑑で疑問の答えが見つかった経験から、園の図鑑や資料、子どもたち自身が持参してきた図鑑などの情報を手がかりにしている。身近な環境や自分たちの経験に置き換えて考え、園庭で6月に花を収穫したブットレアや、ジャム作りをした桑の実に答えが結び付いた。餌の与え方にも思考をこらして、試す様子があった。自分たちで現状をしっかり理解し、抱いた疑問に対して仮説を立て、確かめようとするサイクルが、子どもたちに身に付こうとしていることを、保育者は確信できた。

ポイント

“むしむしの家”での体験から虫や虫の棲みかを大切にすることを実感している子どもたちは、虫を自分たちの生活の場に連れて来てしまうことの意味や、飼い続けることの責任を感じて活動しています。羽化を予想して期待し、蝶の誕生に感動すると共に、餌の必要性に気付き「自分たちが用意しなければいけない」と考え合います。樹液や果実がよいという情報から「ドドメジャム」、ストローのような口でどうしたら吸えるのか考えて「ティッシュに浸み込ませる」という創意工夫が生まれています。このような**日常の豊かな自然体験により引き出された発想（仮説・気付き）を活かすことができる環境や仲間、保育者の存在は貴重です。**